

事務事業名		歯科診療所運営事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業
政策体系	政策名	02 安心が確保されたまちづくりの推進		事業期間	
	施策名	08 生涯にわたる健康づくりの推進		区分	
	基本事業名	02 地域医療の充実		単年度繰返	
根拠法令		-		※期間欄に開始年度を記入	
所属	部課名	市民生活部国保医療課		【開始年度】	
	課長名	佐々木 直央		平成13 年度～	
	係名	越喜来診療所	電話	0192-44-2103	
	担当者	中嶋 聖志	内線	-	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				事務事業区分	
<p>むし歯、歯周疾患患者の診療、指導及び乳幼児、児童の定期健診等の保健事業を行い、この診療行為に伴う診療収入により歯科診療所を運営していくというのがこの事業の概要である。</p> <p>事業費の内容は、主なものとして医療用消耗品購入費、施設維持管理費(燃料費、光熱水費等)、診療用材料費、技工委託料、医療機器購入費がある。</p> <p>業務内容は、①診療業務(月・金曜日9:00～17:00、火・水・木曜日10:00～18:30)、②保健事業(乳幼児歯科健診、学童児童歯科健診等)、③住診(随時)となっている。</p>				E 一般	
事務事業の概要(※期間限定複数年度のみ)				全体計画	
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金			
		都道府県支出金			
		地方債			
		その他			
		一般財源			
	事業費計(A)			0	
人件費	正規職員従事人数				
	延べ業務時間				
	人件費計(B)			0	
トータルコスト(A)+(B)				0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称	単位	
むし歯、歯周疾患患者に対し診療、指導等の医療を提供した。また、乳幼児、学童児童に対し歯科定期健診等の保健事業を実施した。	ア	診療日数	日
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ		
前年度と同じ	ウ		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)		
主に綾里地区の住民	名称	単位	
	カ	行政区内人口	人
	キ		
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	ク		
受診・指導を受けることによって、住民自らが健康づくりに参加する意識が向上する。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		
	名称	単位	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	サ	延べ患者数	人
早期に適切な医療が受けられる。	シ	虫歯がある児童の割合	%
	ス		

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費 財源内訳	単位	年度						
			2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	7,428	7,300	7,044	6,835	6,835	6,835	
	一般財源	千円	5,937	4,901	5,569	5,568	5,568	5,568	
	事業費計(A)	千円	13,365	12,201	12,613	12,403	12,403	12,403	
	正規職員従事人数	人	5	5	6	6	6	6	
	延べ業務時間	時間	7,800	7,800	9,300	9,300	9,300	9,300	
	人件費計(B)	千円	31,200	31,200	37,200	37,200	37,200	37,200	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	44,565	43,401	49,813	49,603	49,603	49,603	
⑤活動指標	ア	日	237	238	233	237	237	237	
	イ								
	ウ								
⑥対象指標	カ	人	2,323	2,247	2,178	2,114	2,114	2,114	
	キ								
	ク								
⑦成果指標	サ	人	4,875	4,643	4,796	5,115	5,115	5,115	
	シ	%	67.0	62.7	53.7	53.7	53.7	53.7	
	ス								

事務事業ID	0308	事務事業名	歯科診療所運営事業
--------	------	-------	-----------

<b>(3) 事務事業の環境変化・住民意見等</b>	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	合併前の昭和47年5月1日から三陸町国保綾里病院に歯科診療施設を設置し、昭和50年6月30日まで診療が行われていたが、それ以降、歯科医師の退職等から休止となっていた。その後地域歯科医療行政の充実を図るとい町の方針から昭和55年5月1日から三陸町国保歯科診療所を新設した。その後合併により大船渡市に承継され、引き続き地域住民の医療の充実に努めている。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	対象者数(診療所利用患者)に変化はないが、健康管理のために定期的な受診をする患者の割合が増加している。その結果、自分の歯を保有する高齢者が増え、全身の健康増進につながっている。また、令和元年度岩手県学校歯科保健優良校表彰で、地区中学校が再優秀校を受賞した。これは、こども園から、小学校、中学校と一貫して歯科保健を取り組んだ結果認められたものである。これら保険事業により、児童生徒のむし歯罹患率が県内他市と比較しても明らかに低下し、それが家庭や地域にも波及している。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	住民サービスの向上を図る、そして住民ニーズに応えるべくして歯科診療所において週3回の夜間診療を実施しており、就労者等の患者から好評を得ている。

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	▽ 理由・内容 地域の医療ニーズに応えるべくこの事務事業を推進し、成果(むし歯、歯周病予防)をあげることで、市民一人ひとりの健康づくりの一環として重要な役割を果たしている。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	▽ 理由・内容 三陸地区はほかの医療機関(開業医等)の進出が困難なことから、市が実施主体とならなければ地域住民の歯科医療の確保と健康の保持増進を図ることが難しく、関与は妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	▽ 理由・内容 綾里地区における医療機関であり、対象・意図は妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない	▽ 理由・内容 延長診療の拡充、土曜診療を実施してほしいとの要望があるが、診療体制の問題、他の医療機関との関係があるため実施は難しい。現在は火、水、木曜日が午後6時30分まで受付しており、会社勤めの患者などへ対応するよう努力している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	▽ 理由・内容 市内には多数の歯科開業医があるが三陸地域には国民健康保険歯科診療所(へき地診療所)のみとなっている。地域住民の歯科医療の確保と健康保持増進に重要な役割を果たしており、廃止となった場合、年間約5000人の延べ患者は大船渡地区へ受診しなければならなくなるが、大半は中高年齢層であり、移動手段等から受診が困難と思われ、地区住民の健康維持増進の後退が懸念される。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 事業費の主なものには人件費、施設管理費(燃料費、光熱水費、医事会計システム賃借料等)、診療材料費、技工委託料であり、削減した場合、診療に支障をきたすこととなり、この事務事業による成果は低下することから、事業費の削減は難しい。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 現在の診療業務所要時間が最低限の所要時間である。所要時間を削減すると、診療時間に影響を及ぼすことになり、サービスの低下を招く。歯科医療は専門的な業務であることから、人員の削減などを行えば、医療現場での責任問題と医療事故の危険性が高まることから、削減するのは難しい。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	▽ 理由・内容 患者窓口負担の割合が、国で定める診療報酬により全国均一で定められている。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																		
1 現状維持	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×	当面、現状維持とするものの、少子高齢化の進展や人口減少に伴い、患者数は年々減少傾向にあることから、医療従事者の人材確保を含めて、安定した診療所運営により、住民の誰もが健康かつ安心して暮らすことができるよう、地域医療を市内全体で俯瞰しながら、診療所の在り方についても、検討する時期となっている。
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上																			
	維持	●	×																	
	低下	×	×																	
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。(現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」(終了・廃止・休止の場合は記入不要)																				

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持	現状維持とするが、医療従事者の人材確保を含めて、将来にわたり住民の健康が維持されるよう診療所の経営改革が必要な時期にあると捉え、今後、外部の意見も取り入れながら、診療所の在り方について早期に検討する。